

しおみ 潮見地区

人口:9,998人(高齢化率29.0%)

世帯数:4,809世帯

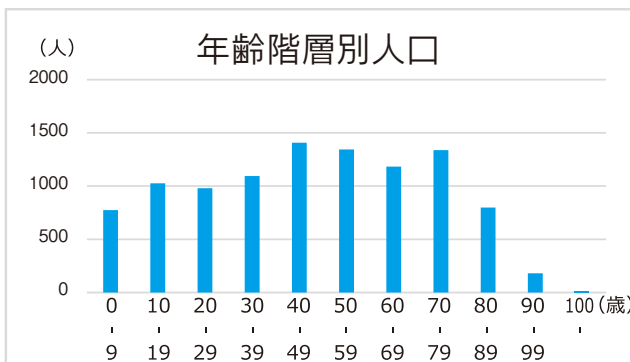


【地区の特色】

「潮見」という地名は、その昔、この地方が台風があるいは大地震のような天災に見舞われ、大津波がこの辺りまで押し寄せ、村人たちは山に駆け登って難を逃れ、日夜潮の動静を窺ったことに由来しているといわれており、地域には神社・仏閣・史跡など多く伝説や民話も数多く残っている。「潮見地区史跡八十八ヶ所巡り」として、冊子にまとめられ、住民が史跡巡りを楽しんでいる。また「宮内伊予柑」の原産地であり、柑橘栽培の立地条件にも大変恵まれていて、昭和40年頃より全国に誇れる特産品の地場産業として大きな役割を果たしている。



宮内いよかん



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・古い地域への新しい世代の参加がスムーズ ・自然が豊か、大川沿いには野鳥が多い ・高齢者の年齢が松山市平均と同じくらいである ・伝統文化の継承ができています ・生活関連施設に恵まれている ・学区の人口が高く他地域からの転入も多い ・自転車で移動可能な範囲が広い ・県営、市営住宅がある ・学社融合(小、中、公民館) ・もちつきなど世代間交流の行事がある ・全地区にまたがりサロン活動(14サロン)が活発である ・地域福祉活動(協力会員)の体制が整っている
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動に若者の参加が少ない ・地域組織の役員になり手が少ない ・勤労世代間の交流が少ない ・一部交通の不便な地域、街灯の少ない危険な地域がある ・下水道不整備などところがある ・川の近くに災害時避難所がある ・大雨時に浸水や、土砂崩れの恐れがある危険地域がある ・農家が減ってきている
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各行事への参加が限られた人になりがちである ・県営、市営団地内の情報把握が難しいことがある ・独居高齢者の増加傾向 ・高齢者の見守りや在宅医療の支援が困難 ・空き家問題増加傾向(独居の方が子どもさんとの同居で地区を離れる等)

潮見地区社会福祉協議会

しんせつで おもいやりある みんなの潮見

構成団体	地区民協・公民館・支所・議員・まちづくり協議会・高齢クラブ連合会・小、中学校 PTA・町内会・地域連絡会・交通安全協会・日赤奉仕団・自主防災連合会・福祉団体
------	---

主な取り組み	活動内容
高齢者が楽しめる場づくり(各種大会)	地域の高齢者の方の楽しみ場の場づくりを目的に、毎年1回ずつ潮見小学校グラウンドなどを活用し、グラウンドゴルフ・パタンク・ゲートボール大会等を主催しています。
世代間交流会	高齢者、小・中学生との交流を促進することを目的に、もちつき・ゲーム・うどん昼食などのイベントを開催しています。
配食サービス	一人暮らし高齢者、高齢者世帯を対象に日赤奉仕団の方々と連携して、手作りのちらし寿司の配布を民生児童委員が行っています。

福祉のつどい

地区内に暮らしている独居高齢者を対象とした「福祉のつどい」を公民館で開催しています。マジックやミニコンサート、ゲームなど会場全体が楽しめる内容となっております。参加できない高齢者にも、広くサービスが行き渡るようお弁当を届けています。



<地区社協が目指すもの>

潮見地区では令和2年度に地域福祉活動計画を作成し、①地区社協の基盤整備 ②福祉学習とボランティア ③在宅福祉 ④関係団体との協働を基本に、住民の方々の主体的参加による活動を進めております。

目標テーマの「しんせつでおもいやりあるみんなの潮見」を目指し、地域における人と人とのつながりを大切に、互いに笑顔で声かけあい、助け合いの心あふれる、住みよい潮見地区となるよう、より一層の協力・支え合いに取り組んでまいります。

地区の状況	■地区民協 民生委員 主任児童委員	20名 2名	■町内会・自治会・区長会等	8団体
			■高齢クラブ	5クラブ
			■子ども会	15団体
	■まち協の設立	平成24年度	■自主防災組織	20組織

地区名も含め地域内にある史跡や伝統文化など多様な角度から歴史に触れることのできる特色のある歴史的文化遺産が多い地区です。独居高齢者を対象とした福祉のつどいのほか、配食サービスや小中学生との交流の場や潮見小学校のグラウンドを活用したスポーツの大会など、高齢者が社会参加をする場が多様な形で設けられていることも特徴として挙げられます。特にイベントに参加できない高齢者にもお弁当を届けるなど、皆が住民として気遣い合える地区でもあります。転入者の増加に伴って、地域活動への若い世代の参入が減少していることから、地区の宝である人のつながりを若い世代にも引き継いでさらに活発化していくことが、未来の住民に残す大きな資産となるでしょう。

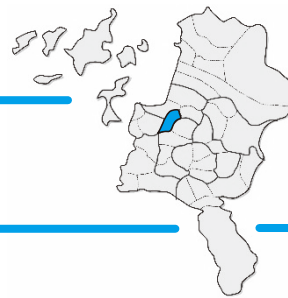


ひさえだ

久枝地区

人口: 19,861人(高齢化率26.0%)

世帯数: 9,378世帯

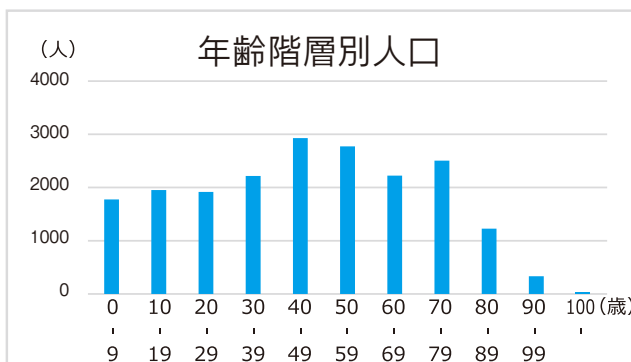


【地区の特色】

久枝地区は、松山城の北西の方向にあり東西約2km、南北約4kmの長方形のような形をしている。かつてはのどかな田園地帯であったが、市街化区域に指定されてからは南は住宅地域、北は農業地域、中央付近には工場が建ち並ぶように変貌してきた。バイパスや県道が縦横に走り、多くの企業をはじめ、学校・病院・マンションや住宅等が建ち並ぶ町となった。近年、人口が増え、交通の便も良くなってきたこともあって、居を求めてくる人々が多くなる傾向が見られる。



眼下の中央卸売市場



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の登下校の見守りを地域の人が行っている ・地区の行事が多い ・医療、教育、買い物、金融機関等生活環境が整っている ・良い人が多い ・子どもがよく挨拶をしてくれる ・チョイソコ事業があり高齢者には交通の便が良い ・川狩り等の伝統文化を大切にしている ・久万川周辺地以外の災害は少ない ・久万川の改修により渡り鳥が来ている
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい住民が地域の行事になかなか参加してくれない ・久枝公民館は建屋、駐車場が狭く、地区集会場でも駐車場が少ない ・公共の交通機関がバスしかなく、さらに本数が減少 ・基幹道路の交通量が多い ・改修が進んではいないが久万川の水害が心配 ・空き家、休耕地や耕作放棄地が多い ・町内会の申請で増えてはいないが防犯灯、街灯が少ない
福祉課題 地域が抱える	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣住民の人間関係が希薄になり、世代間の交流も少ない ・町内会に入る世帯が減っている ・子どもの減少・老々介護の増加 ・町内の担い手(町内の役員や民生委員)が育たない ・県道の交通量が多く危険 ・ため池があり事故及び災害等の安全面で不安 ・空き家が増加している ・災害時の避難ルートが分かりにくい ・災害無線が聞こえにくい ・イヌネコの糞害 ・ゴミ置き場のカラス被害

久枝地区社会福祉協議会

人いきいき 誰もが住みたい 久枝に

構成団体	地区民協・公民館・町内会連合会・まちづくり協議会・支所
主な取り組み	活動内容
各種講座の開催と通知	脳トレや体操、福祉講座を実施、年に2回発行の福祉だよりにて福祉情報の周知・啓発に努めています。
昔遊び集会 名人さんに学ぼう	地域住民が昔の遊びや名人芸などを伝え、小学生との交流の機会を図っています。また、児童館行事にも積極的に関わっています。
独居高齢者訪問事業	地域内の一人暮らし高齢者を対象に日常生活の慰労を目的として地区民協と連携し、自宅を訪ねる活動を続けています。

夏まつり

「老いも若きも誰もが気軽に集い会える久枝でありたい」との思いを重ねた夏祭りが、およそ100名の来場者を迎え盛況のうちに開催されました。幼な児の愛らしい浴衣姿に癒され、お兄ちゃんに教えてもらいながらの輪投げも一投毎に歓声が挙がり、世代を超えた夏祭りとなりました。継続した活動になればと願っております。



<地区社協が目指すもの>

《城の西北 緑の丘に 名も久枝…》と小学校の校歌にも歌われてきた久枝地区です。都市化が進み、当時の田園風景を残しながらも住宅地区が増え、中央卸売市場を代表とする商業施設があり、小学校・中学校・高校・盲学校・児童館など教育施設も充実している街と自負しています。

そうした中、『人いきいき誰もが住みたい久枝に』を基本理念とし、何時でも気軽にお互いに声を掛け合い、おしゃべりをしたり助け合ったり、子ども達の成長を見守り、高齢者や弱者を気遣う、そのような久枝地区でありたいと願っています。

地区の状況	■地区民協	28名 2名	■町内会・自治会・区長会等	14団体
	民生委員		■高齢クラブ	2クラブ
	主任児童委員		■子ども会	3団体
	■まち協の設立	平成29年度	■自主防災組織	15組織

バイパスなど交通環境に恵まれており、様々な企業や商業施設がみられ、医療機関や教育機関などの暮らしに必要な社会資源も充実した地区となっています。高齢者を対象とした各種講座が開催されるほか独居高齢者訪問事業など、高齢者を支える取り組みが多くみられるだけでなく、高齢者の持つ知恵や技術を交流も兼ねて次世代へつなげる昔遊び集会をみてもわかるように、高齢者が支援者ともなっています。新しく転入してきた住民も地域の行事や支え合いの輪に入り、地区社協の目標にもなっている住民が互いに助け合い、子どもの成長を見守り、互いに気遣い合える環境整備の実現のモデルとなることが期待されます。



わ け 和気地区

人口: 11,987人(高齢化率31.7%)
世帯数: 5,674世帯

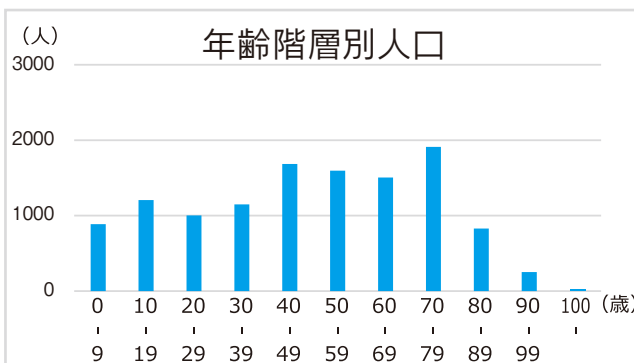


【地区の特色】

和気地区は、松山市の北部に位置し、かつては農業と漁業を中心とした地域であったが、時代の都市化とともに、企業をはじめマンションや住宅等が凌ぎを削りあうように建ち並ぶ地域となった。また、他地域からの転居者も増加し、住民意識も変化しつつある。しかし、日頃から町内会や各種団体は相互の親睦や連携がとれており、地域一体となった様々な活動が展開されている。



大声大会in和気浜海岸



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関(公民館、町内会連合会、地区民協、病院、警察等)との連携が取れている ・和気公民館のリーダーシップ ・青パトによる安全パトロール(毎月5、15、25日) ・小中学校、みなら特別支援学校城北分校の福祉活動への協力体制が整っている ・お接待、グループホーム訪問、独居老人安否確認パトロール ・地区社協と地区民協との協力(地区民協の会合に参加) ・宿泊体験学習(防災教育)、ウォークラリー(三世代交流) ・和気つ子安全パトロールによる安心安全のまちづくりが行われている ・福祉施設が多くあり、秋祭りには神輿を迎え入れてくれる ・海の日の大声大会(1200人参加)による防災意識の強いまちづくり ・災害が少ない ・地域の大きな行事が多く参加者も多い ・地域の団結力がある ・緑多き田園地域 ・65才以上の高齢者が活動的 ・休耕地にソーラーを設置活用 ・はまぼうふ(希少植物)がある ・和気浜海岸清掃
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・和気浜海岸が近いため、南海トラフ地震への不安が大きい ・子ども会が減っている ・児童の親との親睦が少ない ・仕事をしている世帯の地域行事への参加が少ない ・福祉活動に携わる年齢が高い ・地域のつながりの希薄化が現在進行中 ・田舎なので夜間の道が暗い ・休耕地、耕作放棄地の増加 ・鳥獣被害
福祉課題 地域が抱える	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化により地域の負担が増大する ・地区社協活動への理解 ・町内会で地域活動に温度差がある ・町内会の役員の引き受け手が少ない ・現役世代の関わりが少ない ・興味のある行事にしか参加しない ・一部、買い物や通院に不便な地域がある ・集いの場に行きたくても手段がない ・隣近所の付き合いが希薄化しており、昔のような井戸端会議がなくなった ・独居高齢者の把握が難しい ・公共交通の乗り物が少ない

和気地区社会福祉協議会

安心・安全・笑顔^{わけ}を和気よう!

構成団体	地区民協・町内会連合会・公民館・共同募金会・小学校・中学校 支所・農協・自主防災組織
------	---

主な取り組み	活動内容
独居老人安否確認 パトロール	一人暮らし高齢者を対象に、防犯・防災のパンフレットと、和気小学校の児童による手紙を持ち、北・内宮中学校の生徒が地域プロジェクトメンバーとともに高齢者宅を訪問し、高齢者の安否確認や地域での見守りの強化を図っています。
合同研修会	地区社協・地区民児協、町内会連合会と連携を高めるため、毎年合同で研修会を実施しています。
放課後子ども教室への 協力・支援	地区社協・地区民児協の関係者による放課後子ども教室の支援及び和気っ子安全パトロール隊によるみまもり支援を行っています。

お接待

公民館と連携し、和気地区にある四国八十八ヶ所の札所「太山寺」から「圓明寺」に向かう道沿いに位置する和気公民館施設にて、毎月歩き遍路の人々をお接待でお迎えしています。

子どもたちによるお接待の日もあり、地区社協としても活動支援を行い地域での福祉学習を推進しています。



<地区社協が目指すもの>

和気地区社協は、高齢者、子ども及び障がい者への福祉を3本柱とし、公民館・地区民協・町内会連合会との連携を密にして地域福祉の推進に取り組んでいます。

- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| (1) 独居老人安否確認パトロール | (2) お接待 |
| (3) 放課後子ども教室への協力・支援 | (4) 合同研修会(社協・民児協・町内会連合会) |
| (5) みなら特別支援学校城北分校との交流 | (6) グループホーム訪問 |

以上の事業を中心に今後も地域住民の方が安心・安全に暮らせる和気地区を目指しています。

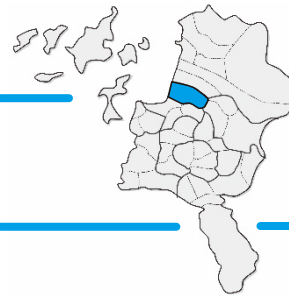
地区の状況	■地区民協		■町内会・自治会・区長会等	22団体
	民生委員	22名	■高齢クラブ	6クラブ
	主任児童委員	2名	■子ども会	1団体
	■まち協の設立	—	■自主防災組織	26組織

過去の一次産業中心の地区から、現在は企業やマンションの増加に伴い新しく移り住む住民も多くなりました。そのような中でも住民を中心とした様々な地域組織と社会資源との連携が円滑にとれる体制が整えられており、災害など有事に地区レベルで取り組むための基盤ができているといえるでしょう。防災教育を行う宿泊体験学習のほか、独居老人安否確認パトロールなど現在の取り組みやつながりも、今後の防災力向上にどのように連携・発展するのか興味深いところです。また、歩き遍路の方々へのお接待文化や子どもたちの見守りなどは、子どもの地域への愛着心が育つ貴重な取り組みとなっております。今後は新たに転入してきた住民や多世代も加わった活動や行事がどのように展開されるのかを期待させられる地区です。



ほりえ 堀江地区

人口: 11,308人(高齢化率31.7%)
世帯数: 5,530世帯

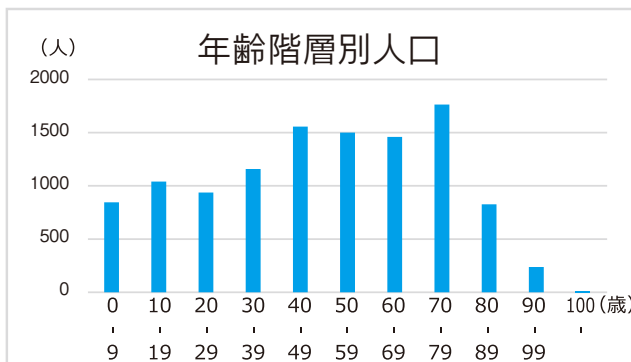


【地区の特色】

堀江地区は、「おだやかな堀江湾に明美な瀬戸の風景、神霊と史跡の宿る山並や心もなごむ出で湯、ほのほのとした人情とあつい血潮の流れる人里」である。北谷古墳からもうかがえるように、古代から村落的な社会共同体が形成され、生活が営まれていた。そして、海路の要所として海からの文化がいぶき、人々の心に刻まれていった。現在は、地域の自然や歴史、文化などを生かした個性のあるふるさとづくりが活発に行われている。



しんすい
親水公園(秋のコスモス)



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・地区コミュニティ会議の充実 ・公民館と小学校の学社融合がしっかりしている(かかし作り、しめなわ作り、国道の清掃活動) ・サロン活動が充実している ・愛媛マラソン時の事前清掃活動、小学生の希望者がカレー作りで応援 ・高齢者クラブの活動が熱心(男性料理教室) ・医療機関の充実 ・スポーツの街 ・海、山があり、空気がきれい ・自主防災活動の充実 ・中学校への地域の対応
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会の中には各行事の実施にあたり横の連携が不足しているところもある ・各団体の役員のなり手がいない、新しい加入者も少ない (高齢クラブでは会長のなり手がいないため休会となるケースが出ている) ・交通の便が悪く生活に不便な地域がある ・坂が多い ・海が近いため、災害に不安(海拔0メートルの所がある)
福祉課題 地域が抱える	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会ができていない団地があり、地域内の連携を取る事が難しい場合がある ・災害援助活動について、自主防災組織、地区民協、消防との連携が必要 ・各団体の役員のなり手が少ない ・消防団員の確保が難しい ・空き家が増えてきた ・独居高齢者の増加、若い夫婦・子どもの減少 ・新しい住人を地区の行事に迎え入れる方法を検討する必要がある ・大きな障がい者施設の現状が把握できない ・元気な高齢者が活躍できる場が必要 ・海の近くに福祉施設があり災害時心配 ・昔の川の氾濫を忘れて防災の意識が低い

堀江地区社会福祉協議会

構成団体	地区民協・公民館・高齢クラブ連合会・議会・中学校・小学校・PTA 郵便局・農協・消防分団・支所・交通安全協会・母子福祉会・教育会・遺族会 区長会・駐在所・まちづくりコミュニティ
------	--

主な取り組み	活動内容
独居高齢者 年賀状配布	民生委員が見守りをしている一人暮らしの高齢者を対象に、メッセージを添え、毎年年賀状をお送りしています。
学校における 福祉学習の支援	地区内の小・中学校と連携し、地域の美化、海岸の清掃活動、共同募金の街頭募金への様々な社会体験を提供できるよう支援しています。
地区社協会費制度	堀江地区社協は地区社協会費制度を導入しており、貴重な福祉事業の財源となっています。町内会と連携することで福祉活動への理解の拡大に努めています。

サロン活動支援

地区内に9か所ある「ふれあい・いきいきサロン」、6か所の「緩和型サロン」の支援を行っています。年に2回サロン代表者会を行うなどサロン間の情報交換もできており、今後も誰でも気軽に集まれる通い場の創出や活動支援に力を入れていきます。



<地区社協が目指すもの>

地区のグラウンドゴルフ、スポーツ競技、小・中学校との交流、公民館やコミュニティ会議との連携活動、歩こう会、遺跡めぐり、うみてらすの活動のほか、自主防災会との訓練等に積極的に参加協力し、地区内の各団体や機関との連携強化を図るとともに、福祉活動を通じて住み慣れた地域で堀江地区の住民の皆さんが安心して生活できるような町作りを目指します。

地区の状況	■地区民協		■町内会・自治会・区長会等	20団体
	民生委員	17名	■高齢クラブ	2クラブ
	主任児童委員	2名	■子ども会	3団体
	■まち協の設立	平成18年度	■自主防災組織	23組織

堀江湾をはじめとした豊かな自然や史跡などもみられる穏やかに時間が流れる地区です。しめ縄づくりなど公民館と小学校との学社融合が活発であり、愛媛マラソン時にはカレー作りに小学生が関わるほか、地域の美化・清掃活動にも小中学生も参加するなど、子どもたちは地域の大人たちに支えられ、自らも地域の活動を支えることで社会の一員であることを実感できる環境が整えられています。高齢者に対しても独居高齢者年賀状配布のほか、サロン活動や高齢者クラブも精力的に取り組まれています。現状の素晴らしい活動を維持・向上するための地域活動への子どもたちのさらなる参加や、親世代を巻き込むなど堀江地区ならではの人情を活かした新しい取り組みが期待されています。

